

水をきれいに

多機能排水用油脂処理剤

ドレイン浄

ゼロエミッションをめざして

排水施設・グリストラップ用
油脂処理促進剤



油脂性廃棄物の削減と原水負荷の低減に。

ド레인浄を排水施設内に投入し、攪拌することにより油脂分が超微細化し、微生物処理を促進します。

ド레인浄の特徴

- 加圧浮上等の油脂性廃棄物の削減により、活性汚泥の発生量を抑えることができ、自主清掃の労力負担軽減と処理コストの削減に寄与します。
- ユーザーの稼働時間の設定で、「ド레인浄」投入量を調整し、あらゆる業種・業態において効果的な油脂分の処理が可能となります。
- 油脂分を分子レベルまで微細化し、速やかな生分解を促すため、排水施設・グリストラップの油脂性酸化臭をおさえ、水質を改善します。
- すぐれた脱脂力により、排水管等の油脂分による目詰まりを改善します。
- 動植物油に対応し、油脂分を除去することで、生分解をスムーズに行えるよう開発された製品です。
- 対生物毒性は極めて低く、また二次汚染を起こさぬよう環境に配慮され、有害物質を含みません。
- 酸、アルカリにも安定し、幅広い現場に適します。

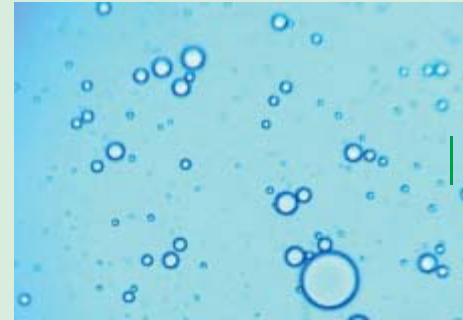


ド레인浄供給装置



ド레인浄18L

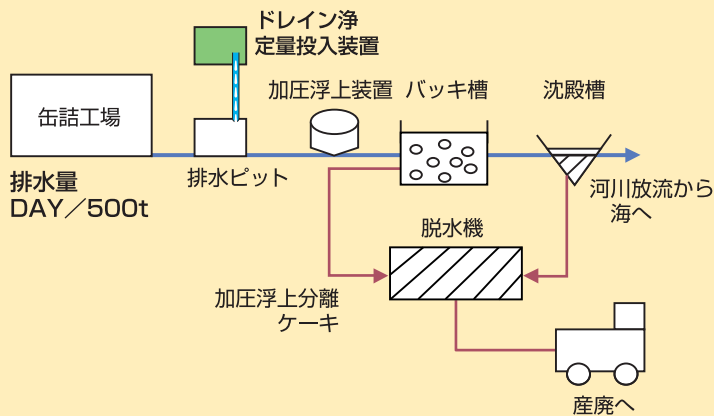
油脂微細化過程の顕微鏡写真



ド레인浄添加直後

※ド레인浄は油脂を低分子化する薬剤であり、「乳化剤」ではありません。

処理フロー図（汚泥削減導入例）

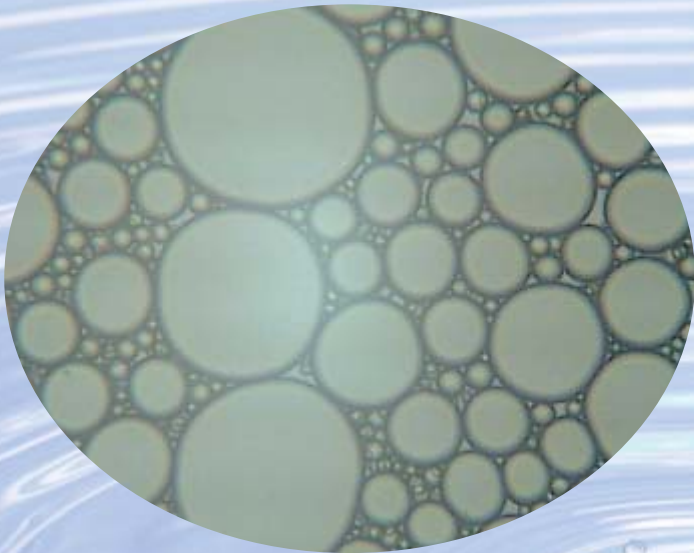


実施前	実施後	削減金額（月）
NHx 6800mg/ℓ	→ 320mg/ℓ	一次余剰廃棄物
BOD 8000mg/ℓ	→ 790mg/ℓ	二次余剰廃棄物
旧産廃量 2.5t / DAY × 18000円	→ 0.07t / DAY	合計直接削減費
旧薬剤量 10kg / DAY × 10000円	→ 1.428kg / DAY	月/△200万前後

【排水ピット】

この実施例は、排出される油（「動植物・魚油」が混合された油）が大量に流入してくる施設で、油がバッキ槽で処理されず、施設の改善が不可能でありました。ド레인浄を定量点滴投入することで、上記の図のように産廃量及び薬剤費が大幅に削減され現在非常に安定した状態で施設が運転されております。

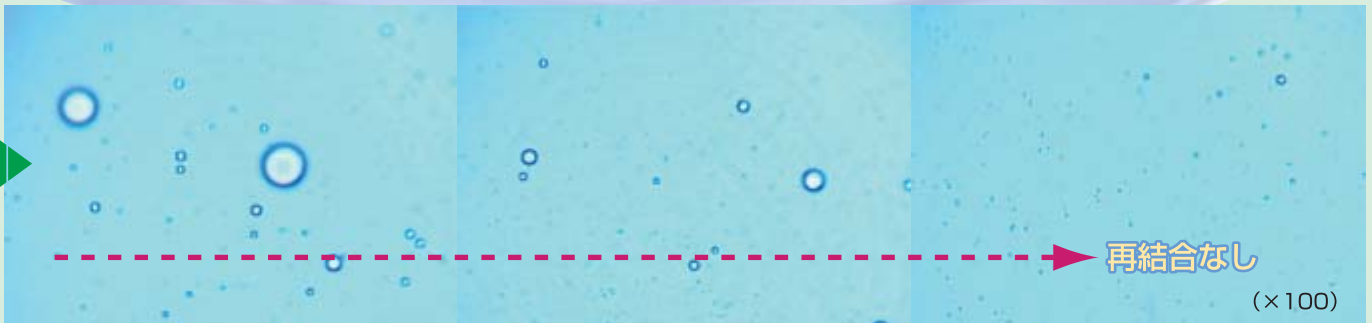
■油脂微細化事例（顕微鏡写真）（×100）



一般洗剤



ドレイン浄



添加30分後

添加1時間後

添加2時間後

(×100)

■ドレイン浄導入事例



加圧浮上装置

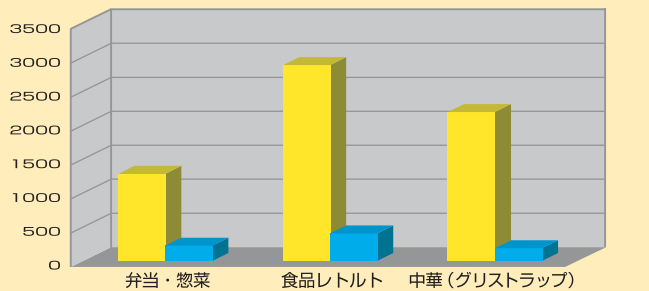


沈殿槽

導入例（業種別実証経過—BOD変化・NHx変化）

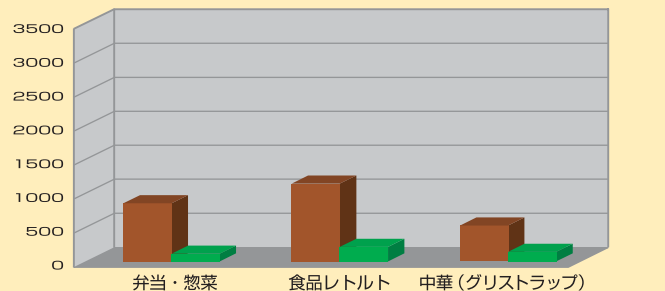
※測定場所：原水調整槽

BOD変化(実証期間2週間)



	弁当・惣菜	食品レトルト	中華(グリストラップ)
■実証前	1200	2800	2100
■実証後	128	320	120

NHx変化(実証期間2週間)



	弁当・惣菜	食品レトルト	中華(グリストラップ)
■実証前	790	1050	470
■実証後	30	112	61

ドレイン浄の使用効果と活性汚泥生物層の関係

ドレイン浄を使用しても、排水施設の活性汚泥生物層への影響はありません。

1. ドレイン浄は、天然のヤシ油脂肪酸を主体とするエステル、エーテルなど生分解性に優れた安全な物質から構成されています。
2. 油の粒子が活性汚泥生物層に分解される大きさに低分子化するため、活性汚泥生物層に「栄養分」として取り込みやすくなります。

注) それぞれの排水施設に流入する各有機物により、発生する活性汚泥生物層の構成が決定されますが、油の多い施設の場合、その油が活性汚泥生物層の増繁殖を阻害し「汚泥の閉塞現象」に陥ります。

ドレイン浄を使用することで、上記事由により油が低分子化されて活性汚泥生物層の増繁殖を促進します。

従って活性汚泥生物層には悪影響を与えませんので、どうぞ安心してご使用ください。

<排水処理施設内の活性汚泥生物層への影響>

